信州 ESD コンソーシアム

令和 6 年度　信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会　実践記録

1.　学校名　対象（学年、人数）
長野県中野西高等学校　ESD 珈琲倶楽部　１，２，３学年　　部員数　３４名

2.　探究課題・活動実践の概要、ねらい、目標等
(1) 活動テーマ　できるときに、できるひとが、できることを
(2) 目　標
SDGs のゴールを達成するために必要な教育活動として、部活動として多くの実践を積みながら学んでいく。ユネスコスクールとして、地域や世界の課題を自分なりに考え、自ら行動を起こすこと。また、すでに行動を起こしている人達とつながり学ぶこと。そして、まだ SDG s を知らない人とつながり、理念を広めることを目標としています。

(3) ESD の視点、育成する資質・能力
①構成概念
☑多様性（多種多様な現象が起きていること）　☑公平性（一人ひとりを大切に）
☑相互性（関わりあっている）　☑連携性（互いに連携・協力すること）
☑有限性（限りがある）　☑責任制（責任を持って）
□その他（　　）
②育成する資質・能力
☑批判的に考える力　☑他者と協力する力
☑未来像を予測して計画を立てる力　☑つながりを尊重する態度
☑多面的・総合的に考える力　☑進んで参加する態度
☑コミュニケーションを行う力

(4) 関連する SDG s

(5) 探究課題・活動実践の概要
①「スキー場跡地における植樹活動および９年間のモニタリングを通して得た知見」
横浜国立大学名誉教授である宮脇昭氏が提唱してきた植樹方法として、その土地に従来から生息している木を複数種類混ぜて密に植える方法を地元役場の方、一般の方と試みた。あえて異なる種類を不等間隔で植えることで生存競争を発生しやすくさせ、本来の森へと近づけることを目的としている。本校生徒と役場の方による９年間のモニタリングの結果、世界初の試みとして成功といえることが分かった。
②「高校生が挑む地域とつながる環境学習の取り組み　麦ストロー製作、登山道修繕」
コーヒーイベントで使用するプラスチック製品に着目し、脱プラを考えたことがきっかけで活動が開始。海なし県である県内、学校周辺のプラスチックごみの調査および実際の新潟の海でのごみ収集と調査を実施。水族館での講演を聞くなどして海洋生物への被害も考えた。また、高天ヶ原高原の湿原保全活動で出たヨシを使ったヨシストロー製作の失敗から、別の種類の種を校内に蒔きストロー製作を継続・探究している。登山道の修繕活動では、3000m 以下の登山で管理の行き届いていない山を守るべくトイレの修繕や登山道の整備を地元の方と行った。普段機会がないと登らない地域の山を知ることができた。
③「フェアトレード珈琲販売を通して理念を広め、学習を通してコーヒー農家の現状を考える」
丸山珈琲さんとコラボして作成したオリジナル珈琲の販売や、地域交流を通してフェアトレードの理念を広める活動を継続している。

3.　流れ（指導計画の概略）

すべての活動において、事前学習、体験、事後学習をセットにする。事前学習は、地域の方や専門の方にお話ししていただき、課題を専門的な知識として正しく理解すること、体験を通して、その活動が課題を解決する一歩になることを実感できるように工夫している。また、事後学習では、体験のまとめや次回の課題などを記録として残している。

4.　効果・反応・所感

すべての活動において、座学としての知識だけでなく実践を伴うことで、自分の言葉として語ることができる生徒が育っている。また、活動を一般の方、地域の方や役場関係者の方と行うことで人への伝え方や動き方などを学んでいると同時に、お客さんや一般参加者からの感謝などの声がけが、次の活動の力になっていると感想で多数散見された。

5.　指導方法・体制の工夫（協力者や資源）

① 市川團十郎さん、ABMORI 実行委員会（山ノ内町役場）、国際生態学センター主幹研究員（横浜国立大学）目黒伸一博士、志賀高原蓮池、前山スキー場
② 日本財団海と日本 PROJECT、上越水族館、国立公園環境課、志賀高原岩菅山、山ノ内町湯田中組合、高天ヶ原、高天ヶ原やなぎらんの会、信州大学附属志賀自然教育研究施設・水谷瑞希准教授、高天ヶ原やなぎらんの会
③ 丸山珈琲、中野市商工会、中野市商工会青年部、中野市豊田地区「ちいさな拠点」